

【文献レビュー】

# スギ花粉症に対する小青竜湯の有用性の検討

原著論文 スギ花粉症に対する小青竜湯の有用性の検討. 医学と薬学 68: 991~998, 2012

医療法人 青雄会 あおやまクリニック(愛知県) 神門 宏和、安井 健二、青山 重雄

花粉症治療において、眠気や倦怠感などの副作用発現が比較的少ない漢方薬による治療に期待が寄せられている。われわれは花粉症治療において代表的な漢方薬である小青竜湯の錠剤について、鼻噴霧用ステロイド薬、点眼薬との併用治療の有用性を検討した。その結果、眠気や倦怠感、インペアードパフォーマンスを重視する治療を希望する患者に対して小青竜湯エキス錠は有用な治療手段であることを確認した。

**Keywords** 小青竜湯、スギ・ヒノキ科花粉症、錠剤、インペアードパフォーマンス

## はじめに

近年、花粉症患者の増加は著しく、特にスギ花粉症の有病率の高さと症状の強さはしばしば社会問題として取り上げられている。「鼻アレルギー診療ガイドライン2009年版」(以下、ガイドライン)では、重症度に応じた治療法の選択が推奨されており、副作用発現が比較的少ない漢方薬による治療に期待が寄せられている。当クリニックでは症状に応じて漢方治療を中心に鼻噴霧用ステロイド薬や点眼薬との併用療法を行っている。

今回、小青竜湯のスギ・ヒノキ科花粉症に対する有用性を、患者からの希望が多い錠剤で検討したので報告する。

## 対象

平成23年2月28日から4月2日\*の期間に当クリニックを受診し、スギ・ヒノキ科花粉症と診断され、その証や症状を考慮して小青竜湯が選択された症例のうち、本調査に同意が得られた11症例(男性4例、女性7例、平均年齢39.7±12.9歳)とした。

表 症例一覧

症例	性別	年齢	病型	治療開始前の重症度	治療2週後の重症度	治療効果の判定	併用薬
1	男	26	くしゃみ・鼻漏	最重症	中等症	著明改善	モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物点鼻液
2	女	55	くしゃみ・鼻漏	重症	軽症	著明改善	モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物点鼻液、オロパタジン塩酸塩点眼液
3	女	41	くしゃみ・鼻漏	中等症	中等症	不変	モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物点鼻液、オロパタジン塩酸塩点眼液
4	女	39	くしゃみ・鼻漏	軽症	重症	悪化	モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物点鼻液、オロパタジン塩酸塩点眼液
5	男	35	充全型	重症	中等症	改善	なし
6	女	57	充全型	中等症	重症	悪化	モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物点鼻液、オロパタジン塩酸塩点眼液
7	女	17	充全型	最重症	中等症	著明改善	フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液、オロパタジン塩酸塩点眼液
8	男	42	くしゃみ・鼻漏	最重症	軽症	著明改善	モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物点鼻液、アシタザノラスト水和物点眼液
9	男	30	くしゃみ・鼻漏	最重症	最重症	不変	フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液
10	女	38	充全型	重症	軽症	著明改善	フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液、オロパタジン塩酸塩点眼液
11	女	57	充全型	中等症	軽症	改善	フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液、オロパタジン塩酸塩点眼液

## 薬剤

クラシエ小青竜湯エキス錠(EKT-19)を1回6錠1日3回食前・食間に投与した。症状の程度や希望に応じて、鼻噴霧用ステロイド薬(1回各鼻腔に2噴霧を1日1回投与)、点眼薬(1回1~2滴を1日4回点眼)を併用することとした。

## 方法

ガイドラインのアレルギー性鼻炎症状の重症度分類と各症状(くしゃみ発作、鼻汁、鼻閉、日常生活の支障度)の程度を基に作成した問診票を用いて、薬剤投与前と投与1週間後、2週間後の状態を調査した。問診票から各症例の薬剤投与前後の重症度をガイドラインの重症度分類に従い判定し、各症例の治療効果は重症度の推移からガイドラインの治療効果の判定に従い評価した。また、全症例における各症状の程度の推移を問診票のスコアから評価した。

\*平成23年の愛知県内におけるスギ・ヒノキ科花粉の総飛散数は133,569個/cm<sup>2</sup>で、平年の約3倍であった。

図1 各症状スコアの推移

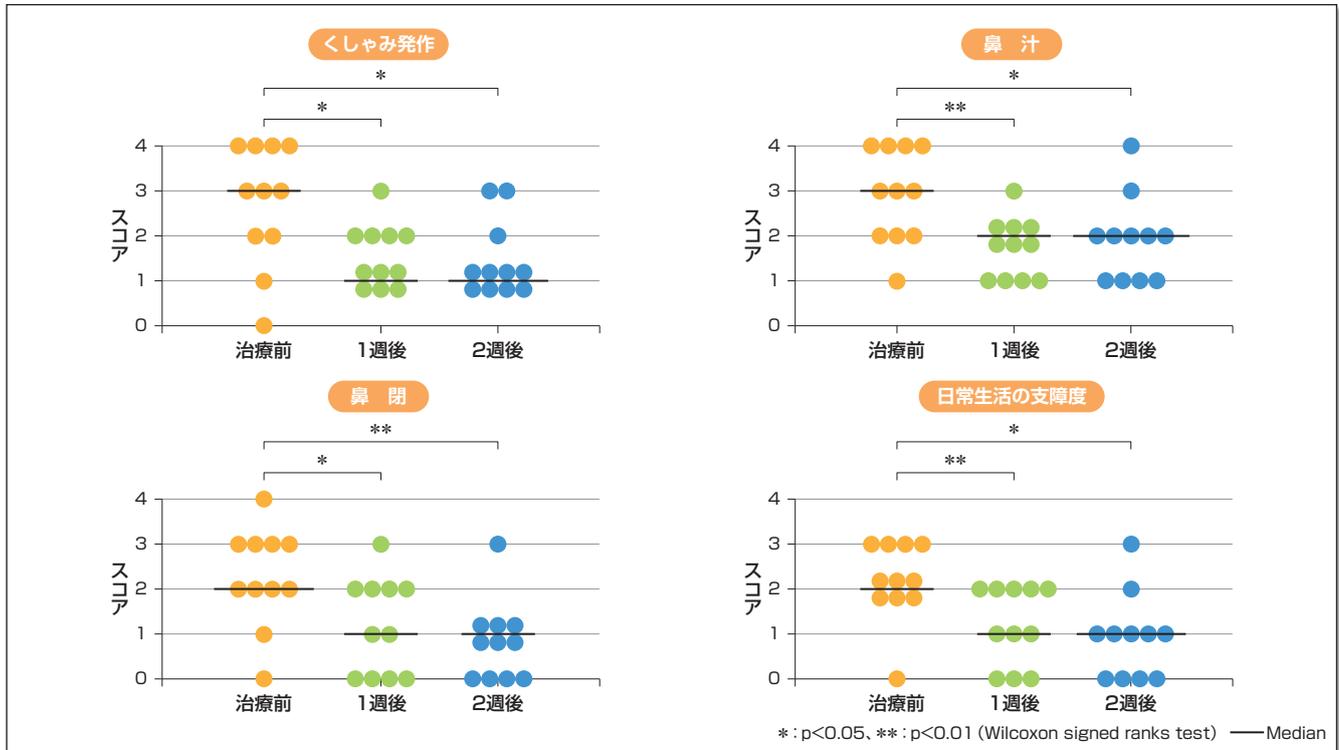
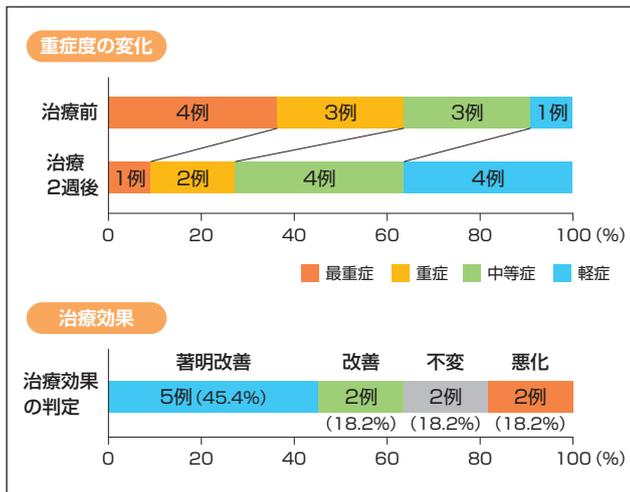


図2 重症度の変化および治療効果



## 結果

11症例の結果を表に、全症例の症状別スコアの推移を図1に示す。また、重症度の変化および治療効果を図2に示す。本調査において有害事象は認められなかった。

## 考察

鼻アレルギーの薬物療法は多くの薬剤が開発されているが、対症療法または発作予防にとどまり、根治療法には

至っていない。一方、漢方治療としては小青竜湯や麻黄附子細辛湯、麻黄湯、葛根湯、葛根湯加川芎辛夷などが用いられている。特に小青竜湯は、鼻アレルギーの代表的な処方として知られており、その有用性に関する報告は多い。

また、漢方薬に対する患者の意識およびコンプライアンスに関する調査では、1日の服用回数は2回、剤型は錠剤を希望している患者が多かったとの報告がある。当クリニックでは患者とのコミュニケーションを図り、患者の意思決定による治療を行っており、漢方薬についても分2・分3の細粒剤や顆粒剤、錠剤など患者のライフスタイルや希望に合わせた処方を行っている。

今回の調査で用いた小青竜湯エキス錠は、細粒剤や顆粒剤と同様の有用性と高い服薬コンプライアンスの維持が確認された。眠気や倦怠感、インペアドパフォーマンスを重視する治療を希望する患者に対して、小青竜湯エキス錠などの漢方薬治療は有用な手段と考えられる。

[本稿は、「医学と薬学」に掲載された論文を、著作権に配慮し許可を得て掲載したものです。]